



# **FUJITSU Software ServerView Suite ServerView RAID Manager V7.0.3 以降 補足情報**

---

## 目次

■	はじめに.....	1
■	対象バージョン.....	1
■	補足情報.....	1
1	インストール.....	1
1.1	インストールパッケージ.....	1
1.2	SVRM V4.2.08 以前の版からバージョンアップ.....	1
1.3	インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア / Java キャッシュクリア.....	1
1.4	現在インストールしているバージョンよりも、前のバージョンの SVRM をインストールする場合に必要な手順.....	2
2	環境.....	2
2.1	他の ServerView 製品と依存関係.....	2
2.2	SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合.....	3
2.3	SVRM V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect.....	3
3	運用.....	3
3.1	クライアント端末から二重監視.....	3
3.2	アクセス制限用グループ.....	3
3.3	VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap.....	3
3.4	MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの推奨値.....	3
3.5	SVRM が出力するイベントのヘッダー.....	3
3.6	SVRM のプロセス(amDaemon)数.....	3
3.7	ポート番号を 3173 から変更した場合.....	4
3.8	サーバのホスト名を変更する場合.....	4
3.9	サーバのホスト名の名前解決.....	4
3.10	SVRM サービスの再起動.....	4
3.11	イベント再収集の設定.....	4
3.12	MDC とパトロールリードは同時に実行不可.....	5
3.13	Server View RAIDManager 配下のパーティション情報が表示されない場合がある.....	5
4	トラブルシューティング.....	5
4.1	SVRM の画面が開かない.....	5
4.2	GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示される.....	6
4.3	SVRM の動作が意図したとおりに動作しない.....	7
4.4	オンラインヘルプが正しく表示されない.....	9
4.5	SVRM の動作確認方法.....	10
4.6	SEL(System Event Log)に「Major HD on SAS controller * Enclosure * Slot * prefail」が出力される.....	10
4.7	/usr/lib64 を使用する場合.....	11

---

---

## ■ はじめに

本書は、ServerView RAID Manager V7.0.3 以降に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView RAID Management 取扱説明書 (sv-raid-manager-ug-jp.pdf)

## ■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView RAID Manager (以下 SVRM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V7.0.3 以降

## ■ 補足情報

### 1 インストール

#### 1.1 インストールパッケージ

OS 毎に使用すべきパッケージが異なります。詳細は「ServerView Suite RAID Manager 取扱説明書」(sv-raid-manager-ug-jp.pdf)の「インストールとはじめに」の項を参照してください。ただし、以下の OS の場合は、適宜読み替えてください。

- Citrix XenServer 6.5 環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Citrix XenServer 7.x 環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 6 for x86\_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 7 for x86\_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。

#### 1.2 SVRM V4.2.08 以前の版からバージョンアップ

これまで設定していた HDD チェックスケジューラおよびバッテリーリキャリブレーションスケジューラの設定内容は、V4.3.6 以降のタスク機能には自動的に引き継がれません。

タスク機能に切り替える場合は、HDD チェックスケジューラおよびバッテリーリキャリブレーションスケジューラを先にアンインストールし、タスクの作成を始めから行ってください。

#### 1.3 インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア / Java キャッシュクリア

GUIに Java を使用する場合、SVRM をインストール後、SVRM の画面を起動する前に必ず WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。

- Java のキャッシュデータ消去方法  
コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施します。

- 
- WEB ブラウザのキャッシュデータ消去方法 (Internet Explorer 8 の場合)  
「ツール」-「インターネットオプション」-「全般」タブより、閲覧履歴の[削除]ボタンから実施します。

#### 1.4 現在インストールしているバージョンよりも、前のバージョンの SVRM をインストールする場合に必要な手順

SVRM は上書きダウングレードをサポートしておりません。以前のバージョンをインストールする場合は、アンインストールしてから再インストールを実施する必要があります。

SVRM for Windows を V6 以降の版数をインストールした環境に、V5 以前の版数をインストールする場合、追加で以下の手順が必要となります。

この場合、設定は引き継がれません。再度設定してください。

- (1) インストールされている V6 以降の SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のフォルダを削除します。

`C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin`

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

- (3) 使用する V5 以前の SVRM をインストールします。

※ ダウングレードで問題が発生した場合、以下の手順を実施してください。この場合、設定は引き継がれませんので、再度設定してください。

Server View RAID Manager for Windows の場合：

- (1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のフォルダを削除します。

`C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager`

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

- (3) 使用する SVRM をインストールします。

Server View RAID Manager for Linux の場合：

- (1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のディレクトリを削除します。

`/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager`

- (3) 使用する SVRM をインストールします。

## 2 環境

### 2.1 他の ServerView 製品と依存関係

SVRM は他の ServerView 製品と依存関係はありません。

---

## 2.2 SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合

SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合は、SVRM に含まれる mib ファイルを ServerView Operations Manager に登録してください。登録しない場合、一部のトラップが「不明なトラップ」になる可能性があります。

## 2.3 SVRM V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect

Windows 環境上で、SVRM V5.7.3 以降において PrimeCollect で資料を採取するには、ServerView Agent V6.20.03 以降に含まれる PrimeCollect が必要です。ServerView Agents V6.20.03 以降をインストールしてご利用頂くか、または ServerView Suite DVD V11.13.08 以降から PrimeCollect.exe をコピーしてご利用下さい。

# 3 運用

## 3.1 クライアント端末から二重監視

1 つのクライアント端末から 2 つ以上の SVRM (GUI) を起動して同一サーバを監視することはできません (正常に動作いたしません) のでご注意ください。

## 3.2 アクセス制限用グループ

アクセス制限を行うための「raid-adm」グループおよび「raid-usr」グループは自動で作成されません。アクセス制限を行う場合には、必要に応じてグループを作成してください。

## 3.3 VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap

VMware ESXi サーバを監視する場合、SVRM が発行する SNMP Trap は ESXi サーバを監視するサーバ (SVRM をインストールしたサーバ) が Trap の発行元となりますのでご注意ください。

## 3.4 MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの推奨値

MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの実行間隔については、各アレイコントローラのマニュアルに推奨値があればそれに従ってください。

## 3.5 SVRM が出力するイベントのヘッダー

SVRM が出力するメッセージは、先頭が「amDaemon:」または「ServerView RAID:」のどちらか一方を付加する形式です。

## 3.6 SVRM のプロセス (amDaemon) 数

SVRM の正常稼働時のプロセス (amDaemon) 数は、OS 環境および RAID カードにより異なります (1 ~ 3)。「ps -ef | grep amDaemon」または「/etc/init.d/aurad status」でプロセス数を確認してください。

---

### 3.7 ポート番号を 3173 から変更した場合

SVRM のポート番号を 3173 から変更した場合、ServerView Agents との連携ができません。また、SVRM サービスが定期的に再起動されます。

### 3.8 サーバのホスト名を変更する場合

サーバのホスト名を変更する場合、オブジェクトをホスト名で登録しているタスク(MDC など)を削除してから再作成してください。

### 3.9 サーバのホスト名の名前解決

ホスト名が解決されるようにネットワーク環境を設定してください。名前解決ができない場合は、SVRM サービスが正常に起動しない場合があります。

例： SVRM が起動せず、以下のメッセージが記録されます。

```
Waiting until ServerView-RAID service is listening on port #3173 0 giving up after 30 seconds
ServerView-RAID service is not listening. Continue anyway.
```

現象が発生する場合は「/etc/hosts」ファイルに設定を追記してください。

例：

```
192.168.0.1 Hostname ★この行のように追記
127.0.0.1 localhost localhost.localdomain localhost4 localhost4.localdomain4
::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6
```

### 3.10 SVRM サービスの再起動

SVRM サービスの再起動を行うには、以下の手順を実施して下さい。

- Windows の場合  
「ServerView RAID Manager」サービスを再起動します。
- RedHat Enterprise Linux 6 以前, Oracle Linux 6 以前, VMware ESX の場合  
「# /etc/rc.d/init.d/aurad restart」コマンドを実行します。
- RedHat Enterprise Linux 7, Oracle Linux 7, SUSE Linux Enterprise Server 12, Citrix Xen Server 7 の場合  
「# systemctl restart svraid」コマンドを実行します。

### 3.11 イベント再収集の設定

SVRM V6.6.10 以降では、VMware ESXi サーバを監視する環境においてネットワークの障害などによる一時的な監視不能状態から復帰した際に、その間のイベントを収集して補完する機能を備えています。監視不能の期間が長い場合を想定して、一定時間以上過去のイベントを無効にするように設定できます。

環境ファイル piLSISStoreLibCIM.ini をテキストエディタで更新してください。

ファイルパス

---

Windows : C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin

Linux : /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

設定

EventLifespanFilterEnabled = True

ActualEventLifespanHours = 72 (現在から残す時間範囲を指定します)

:

SeverityFilter = error

### 3.12 MDC とパトロールリードは同時に実行不可

MDC とパトロールリードは、どちらも RAID 構成の整合性のチェックと修復を行う機能です。これらの機能は同時に実行させることはできません。どちらか一方を実行するように設定する、または同時刻に実行しないようにスケジュールを設定してください。

### 3.13 Server View RAIDManager 配下のパーティション情報が表示されない場合がある

論理ドライブ数が 300 を超えている場合、Server View RAIDManager 配下のパーティション情報が表示できなくなります。論理ドライブ数は 300 未満にしてください。

## 4 トラブルシューティング

### 4.1 SVRM の画面が開かない

- キャッシュの削除

Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

- ▶ Web ブラウザのインターネット一時ファイル

Internet Explorer の場合

[ツール]—[インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

FireFox の場合

[ツール]—[オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。

- ▶ JRE のインターネット一時ファイル

Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

- Java のセキュリティ設定

Java 7 U25 (7u25) 以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet (ServerView Operations Manager、SVRM など)の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処を行うことで Java Applet を実行することができます。以下のいずれかの対処を行ってください。

---

➤ 対処 1

Java 7 の最新版にアップデートしてください。

なお、環境内に **ServerView Operations Manager** がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に **ServerView Operations Manager** の以下のサービスを記載の順番に停止してください。

- (1) **ServerView Download Service**
- (2) **ServerView Services**
- (3) **ServerView JBoss Application Server 7**

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください。

- (1) **ServerView JBoss Application Server 7**
- (2) **ServerView Services**
- (3) **ServerView Download Service**

➤ 対処 2

- (1) **Java コントロール・パネル**を開きます。
- (2) **セキュリティタブ**の**セキュリティ・レベル**を「中」にし、「適用」をクリックします。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、掲記の対処 1、2 に加え、以下の設定も合わせて実施してください。

- (1) **Java コントロール・パネル**を開きます。
- (2) **詳細タブ**の「**証明書失効チェックを実行**」で「**チェックしない(非推奨)**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

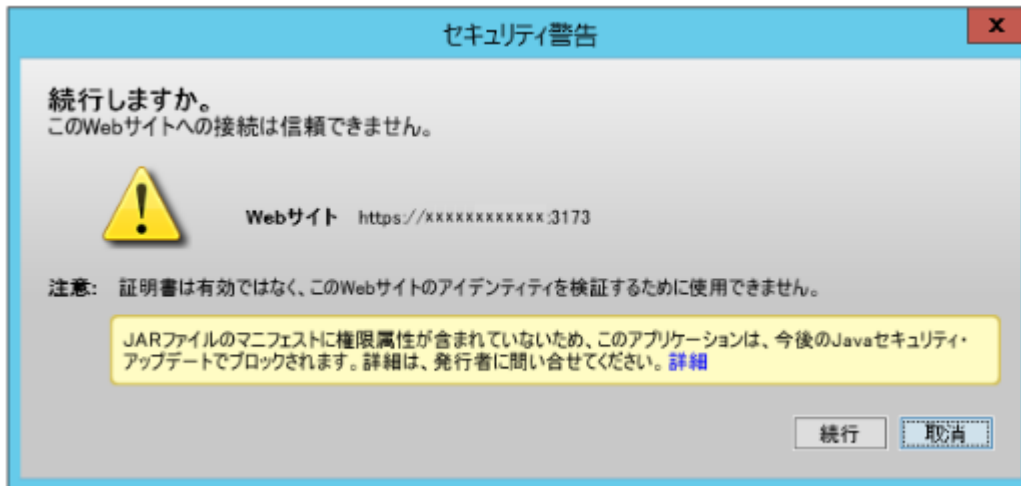
#### 4.2 GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示される

Web ブラウザを一度閉じてから、**SVRM** の URL を再度入力してください。または、スタートメニューから **SVRM** のアイコンを再度選択してください。

「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」の画面にて「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)」のクリック操作を行う際、続けて表示される以下の「セキュリティ警告」のダイアログ画面において、速やかに「続行」を選択してください。

併せて、「**PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual**」(manual.pdf)の「2.3 セキュリティ証明書」の項もご参照ください。





#### 4.3 SVRM の動作が意図したとおりに動作しない

ログイン画面が開けないなど SVRM の動作が意図したとおりに動作しない場合、以下の処置により復旧できることがあります。復旧を優先する場合は、下記手順を実施して適宜復旧を試みてください。

##### 【現象による場合分け】

対象 OS: 全 OS

- SVRM のログイン画面が開けない場合は、復旧手順(1)～(10)を実施してください。
- その他の不具合が SVRM で発生している場合は、復旧手順(5)～(10)を実施してください。

対象 OS: ESXi

- 登録した ESXi ホストが SVRM に表示されないなど ESXi に関する場合は、復旧手順(11)以降を実施してください。

##### 【復旧手順】

- (1) WEB ブラウザを起動するマシンから SVRM がインストールされているサーバへの通信経路に問題がないことを確認する (ping など)。問題があれば、ネットワーク接続を確認する。  
復旧しない場合は次へ。
- (2) SVRM がインストールされているサーバについて、ポート 3173 がファイアウォールによりブロックされていないことを確認する。ブロックされていたら解放する。  
復旧しない場合は次へ。
- (3) WEB ブラウザを起動するマシンにて、SVRM がインストールされているサーバの名前解決ができることを確認する。問題ある場合は修正するか、または IP アドレスを直接指定してアクセスする。  
例: `https://192.168.x.x:3173`  
復旧しない場合は次へ。
- (4) WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)をクリアする。  
復旧しない場合は次へ。

- 
- (5) SVRM サービスを再起動する。  
「3.10 SVRM サービスの再起動」の手順を実施してください。  
復旧しない場合は次へ。
- (6) SVRM が動作しているサーバ(OS)を再起動する。  
復旧しない場合は次へ。
- (7) SVRM を最新版にアップグレードする。  
復旧しない場合は次へ。
- (8) Java を再インストールする。  
※アンインストール後に最新版の Java をインストールすることを推奨。  
復旧しない場合は次へ。
- (9) SVRM をアンインストールして、以下のフォルダまたはディレクトリを削除した後に最新版の SVRM をインストールする。
- Windows の場合  
C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager
  - Linux の場合  
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager
- 復旧しない場合は次へ。
- (10) SVRM が動作しているサーバ(OS)の修正パッチおよびサービスパックの最新版を適用する。  
復旧しない場合は次へ。

※ESXi ホストを監視している場合は以下も実施してください。

- (11) ESXi ホストを SVRM に再登録(ESXi ホストの削除→登録)する。  
削除方法/登録方法は、以下のインストールガイドをご参照ください。  
<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド>  
復旧しない場合は次へ。
- (12) ESXi ホスト側の sfcdbd プロセスと、SVRM サービスを再起動する。
- ESXi Shell から行う場合
    1. vSphere vSphere ESXi 6 サーバの ESXi Shell にログオンする。
    2. sfcdbd を停止する。  
「# /etc/init.d/sfcdbd-watchdog stop」コマンドを実行する。
    3. sfcdbd の停止を確認する。  
「# /etc/init.d/sfcdbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcdbd is not running」と出力されることを確認する。
    4. sfcdbd を起動する。  
「# /etc/init.d/sfcdbd-watchdog start」コマンドを実行する。
    5. sfcdbd の起動を確認する。  
「# /etc/init.d/sfcdbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcdbd is running」と

---

出力されることを確認する。

6. SVRM サービスを再起動する。

● vSphere Client から行う場合

1. vSphere Client から vCenter Server または ESXi ホストにログインする。
2. 左側に表示されるインベントリ パネルから対象の ESXi ホストを選択し、「構成」タブ - 「ソフトウェア」 - 「セキュリティプロファイル」を選択する。
3. サービスの「プロパティ」をクリックし、サービス プロパティを開く。
4. 「CIM サーバ」を選択し、「オプション」ボタンをクリックする。
5. サービス コマンドで「停止」をクリックする。
6. サービス コマンドで「開始」をクリックする。  
※「再起動」コマンドの場合、タイムアウトして失敗する場合があります。このため、「開始」をクリックしてください。
7. vSphere vSphere ESXi 6 サーバの ESXi Shell にログオンする。
8. sfcbd の起動を確認する。  
「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。
9. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(13) ESXi ホスト(OS)と SVRM サービスを再起動する。

以下、その手順。

1. ESXi ホスト(OS)を再起動する。
2. 「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。
3. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(14) SVRM を最新バージョンにアップデートする。

SVRMとVMware ESXi のサポート状況を確認し、組合せをサポートしている最新バージョンを選択してください。

復旧しない場合は次へ。

(15) ESXi ホスト(OS)を最新バージョンにアップデートする。

ESXi ホスト(OS)のアップデートにより SVRM との組合せがサポートされなくなる場合は、SVRMも組合せをサポートしているバージョンにアップデートする。

#### 4.4 オンラインヘルプが正しく表示されない

オンラインヘルプが正しく表示されない場合は、WEB ブラウザのエンコード選択を「自動」に設定してください。

例：Internet Explorer 8 の場合

メニューバー「表示」-「エンコード」-「自動」

---

## 4.5 SVRM の動作確認方法

SVRM の動作確認は、amCLI コマンドによってコマンドラインから確認できます。

「amCLI -l」の結果が情報リストだった場合、正常に動作しています。

```
例: >amCLI -l
      >21/3: System, 'RAIDManager'
      > 32/1: SAS adapter, 'FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1)'
      > 32/3: SAS Backplane
      > 32/4: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (0)', 152096MB
      > 32/5: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (4)', 152096MB
      > 32/2: Logical drive 0, 'LogicalDrive_0', RAID-1, 152096MB
      > 21/0: Multiplexer, 'ServerView RAID Manager'
      > 21/4: Scheduler
      > 21/10: Task, 'Write snapshot'
      > 21/5: E-mail log
      > 21/1: File log
      > 21/2: System log
      > 32/0: Plugin, 'LSISStoreLib-Plugin'
```

「amCLI -l」の結果が情報リスト以外だった場合、問題が発生している可能性があります。サービス再起動または OS 再起動を実施してください。

```
例: >amCLI -l
      > Communication with Core Service failed.
[問題が発生している可能性がある場合のメッセージ]
● Communication with Core Service failed.
● Database failed.
● Database not yet initialized.
```

注) サービス起動直後は"Database not yet initialized."になる場合があります。時間を置いてから実行してください。

## 4.6 SEL(System Event Log)に「Major HD on SAS controller \* Enclosure \* Slot \* prefail」が出力される

SAS カード接続の ETERNUS が監視対象になっている場合、次のメッセージが SEL に出力されます。

```
Major HD on SAS controller * Enclosure * Slot * prefail
```

SAS カード接続の ETERNUS は監視対象ではありませんので、このメッセージは無視してください。または、該当の装置を監視対象から外してください。

---

---

#### 4.7 /usr/lib64 を使用する場合

Linux 環境において、LD\_LIBRARY\_PATH に/usr/lib64 を設定すると amCLI コマンドが次のようにエラーとなります。

```
# export LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib64
# amCLI -l
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/amCLI:
/usr/lib64/libstdc++.so.6: version `CXXABI_1.3.8' not found (required by
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/libicuuc.so.57)
```

SVRM は 32bit ライブラリ/usr/lib/libstdc++.so.6 を使用して動作します。しかし前述のように /usr/lib64 を設定しますと、64bit ライブラリ/usr/lib64/libstdc++.so.6 が使用されることによりエラーとなります。

/usr/lib64 を使用する場合は、次のように 64bit ライブラリサーチパス LD\_LIBRARY\_PATH\_64 に設定してください。

```
# export LD_LIBRARY_PATH_64=/usr/lib64
# amCLI -l
```

以上